

# 第1回長良川河口堰の更なる弾力的な運用 に関するモニタリング部会

## 2. 河口堰調査検討会、意見交換会からの意見

平成23年3月15日

国土交通省中部地方整備局  
水資源機構中部支社

# 長良川河口堰の更なる弾力的な運用について

## 更なる弾力的な運用に関する地域との意見交換の場

### 長良川上流(H4～)

#### ●長良川河口堰調査検討会

(平成23年2月21日)

学識経験者、各種団体の代表者、県・市町村関係者  
事務局:岐阜県

※中部地方整備局、水資源機構は、事業者として参加。

#### ○長良川河口堰県民調査団

(平成22年11月22日)

長良川河口堰調査検討会委員、漁業協同組合、  
土地改良事業団連合会、市町議会議員、水防団、  
消防団、婦人会、公募

※検討会設置要綱第4条に基づき編成。

### 長良川下流

#### ●長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会

(平成23年3月2日)

##### ▼沿川の地方公共団体

三重県、桑名市、愛知県、愛西市

##### ▼利水関係者

三重県(中勢水道、北伊勢工業用水)、桑名市(長島町かんがい等)、愛知県(長良導水)、立田村土地改良区(福原用水)、名古屋市(未利用)

##### ▼農業関係者

長島町土地改良区、立田村土地改良区

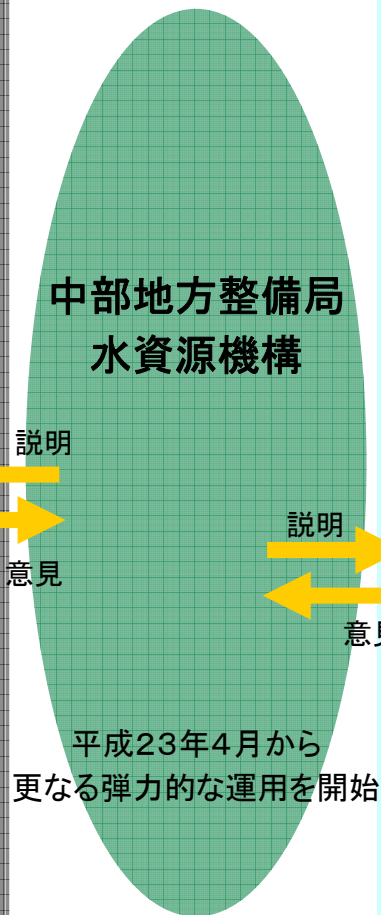
##### ▼漁業関係者

桑名漁業協同組合連合会

##### ▼沿川関係者

農協、商工会、自治会連合会、観光協会、NPO等

事務局:中部地方整備局、水資源機構



## 学識経験者からの意見聴取の場

### 【既設】中部地方ダム等管理フォローアップ委員会

委員長	藤田 裕一郎	岐阜大学教授
委員	石田 典子	名古屋女子大学教授
	沖野 外輝夫	信州大学名誉教授
	奥野 信宏	中京大学教授
	駒田 格知	名古屋女子大学教授
	西條 好迪	岐阜大学准教授
	杉戸 大作	(財)廃棄物研究財団理事長
	辻本 哲郎	名古屋大学大学院教授
	中村 浩志	信州大学教授
	長谷川 明子	ビオトープを考える会会長
	松尾 直規	中部大学教授

### 【新たに設置】長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関するモニタリング部会

(第1回部会平成23年3月15日)

部会長	松尾 直規	中部大学教授
委員	石田 典子	名古屋女子大学教授
	関口 秀夫	三重大学名誉教授
	辻本 哲郎	名古屋大学大学院教授
	藤田 裕一郎	岐阜大学教授

※中部地方ダム等管理フォローアップ委員会の規約第7条に基づく「モニタリング部会」。

# 長良川河口堰調査検討会

## 平成22年度 長良川河口堰調査検討会

開催日 : 平成23年2月21日

開催場所 : (岐阜県岐阜市内) ホテルグランヴェール岐山

内容 :

- 1) 長良川河口堰県民調査団における要約意見について
  - (1) 水質・底質について
  - (2) 魚類について
  - (3) その他(治水対策などについて)
- 2) 長良川河口堰の更なる弾力的な運用について

### 調査検討会のメンバー

#### <学識経験者>

河村 三郎 岐阜大学名誉教授 【議長】  
永瀬 久光 岐阜薬科大学教授  
森 誠一 岐阜経済大学教授  
野平 照雄 自然学総合研究所主任研究員

#### <県・市町村関係者>

安田 謙三 岐阜県議会議長  
中村 慈 岐阜県議会循環社会・防災対策特別委員会委員長  
松永 清彦 岐阜県市長会(海津市長)  
岡崎 和夫 岐阜県町村会(池田町長)  
坂 正光 岐阜県環境生活部長  
馬場秀一郎 岐阜県農政部長  
金森 吉信 岐阜県県土整備部長

#### <各種団体の代表者>

上松 幸恵 岐阜市女性防火クラブ連絡協議会長  
天野 周三 海津市高須輪中水防団長  
玉田 和浩 岐阜県漁業協同組合連合会理事  
安藤 幸道 岐阜釣具商組合長  
森 正弘 高須輪中土地改良区理事長  
伊藤 善男 岐阜長良川温泉旅館協同組合代表理事長  
山下 純司 鵜匠代表  
尾関 尚司 岐阜商工会議所名誉副会頭  
栗本 理花 日本労働組合総連合会岐阜県連合会執行委員  
高木 清江 ぎふ女性大学の会代表  
中谷 敬子 岐阜県商工会女性部連合会長  
加地 菊子 (社)ガールズスカウト日本連盟岐阜県支部長  
川合千代子 千秀 水環境もやい研究所

# 平成22年度 長良川河口堰調査検討会

主な意見:

## <長良川の底質について>

○木曾川河口付近の川底形状は、ほぼ真っ直ぐ伊勢湾に達し、出水時に上流からの有機物(細粒土砂)は河川にあまり溜まらず、川底は砂質系となっている。

これに対し、河口堰直下流の長良川と揖斐川の合流付近は、河口堰建設以前から川底は湾曲し、深掘箇所が形成され、両川の流量の違いや出水時間のズレ等で、有機物が堆積しやすい。

この状況は伊勢湾台風以降殆ど変りなく、深掘れ箇所に有機物が堆積し、その後の出水により砂が溜まり、またその上に有機物が溜まるという繰り返しとなっている。

## <魚類(アユの遡上)について>

○アユについては、遡上数だけではなく、どのような状況に遡上してきたかものか、環境の変化があったのか、なかったのか物理的環境も含めて、遡上状況を評価したほうがよい。

## <生物環境について>

○生物は、いろいろな関係が複雑にネットワーク上に繋がっており、例えば溶存酸素量(DO)、総リン、総窒素、クロロフィルaとか、或いは物理的環境がどのように関係するかを加味しないと、生態系に関して環境が改善したとは判断ができないのではないかと。

○河口堰ゲートの更なる弾力的な運用に期待したい。ドラステックな弾力的運用を検討いただければと思う。

# 平成22年度 長良川河口堰調査検討会

主な意見:

<その他(治水対策などについて)>

○長良川河口堰が完成し、堰上流の治水対策が進んだことで、現在は枕を高くして眠ることが出来るようになった。伊勢湾台風時は堤防の上から手が洗えるほどであったが、現在は洪水になっても高水敷に水が浸かるようなことは少ない。長良川下流域の住民としては、安心して安全な地域になったということで、大変感謝をしている。

同時に長良川河口堰で開発した水は、既に80万人の飲み水として、県内においても既得の農業用水が安定的に取水・利用されている。

河口堰の弾力的運用によりドラスティックに効果が出ることを期待する一方で、塩水が上流に入らない観点も十分に視野に入れた運用をお願いしたい。

<長良川河口堰の更なる弾力的な運用について>

○堰上流の水質改善のため「アンダーフロー」によるフラッシュ操作について、現行の開始基準である溶存酸素量(DO)6mg/ℓから7.5mg/ℓに変更をすることであるが、底層で溶存酸素量(DO)7.5mg/ℓといえ、かなり良い環境である。

夏期に底層の溶存酸素量(DO)が7.5mg/ℓを下回る毎にフラッシュ操作を行えばかなり頻繁に操作が必要になると考えられる。

# 長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会

## 第1回 長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会

開催日：平成23年3月2日

開催場所：(三重県桑名市内)長良川河口堰(現地視察)、長島ふれあい学習館(意見交換会)

概要：現地視察と意見交換会を開催

### 意見交換会のメンバー

#### (地方自治体)

北川 貴志 三重県県土整備部長  
水谷 元 桑名市長  
近藤 隆之 愛知県建設部長  
八木 忠男 愛西市長

#### (利水関係者)

小林 清人 三重県政策部長  
高杉 晴文 三重県企業庁長  
山田 周司 愛知県地域振興部長  
村瀬 善寿 愛知県企業庁水道部長  
伊藤 利明 立田村土地改良区理事(福原地区担当)  
三羽 宏明 名古屋市上下水道局次長

#### (農業関係者)

金森 義文 長島町土地改良区理事長  
古江 寛昭 立田村土地改良区理事長

#### (漁業関係者)

秋田 清音 桑名漁業協同組合連合会代表理事長

#### (沿川関係者)

伊藤 和子 三重長島農業協同組合女性部長  
伊藤美佐子 桑名三川商工会女性部長  
伊藤 満生 桑名市自治会連合会副会長  
久保田 稔 NPO法人木曾川文化研究会代表  
中村 幹雄 日本シジミ研究所長  
長田 次雄 昭和四日市石油(株)四日市製油所総務課長  
丹羽 和一 長島観光協会長  
平野 久克 NPO法人木曾三川環境保全機構理事長  
水野 正信 長島観光開発(株)常務取締役  
宮崎 豊正 三重県ウインドサーフィン連盟会長

#### (国土交通省)

山根 尚之 中部地方整備局河川部長  
浅野 和広 中部地方整備局木曾川下流河川事務所長

#### (水資源機構)

富岡 誠司 中部支社副支社長  
高橋 武彦 長良川河口堰管理所長

# 長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会

主な意見:

## <地方自治体>

- 現地調査で現地をみたが、フラッシュ操作は有効であると思っている。塩が入るようなやり過ぎは駄目だが、下流の更なる環境改善のためにも検討は是非行ってほしい。
- 更なる弾力的な運用にあたっては、塩害を出さないこと。下流の漁民に配慮すること。分かりやすい効果の資料づくりを行ってほしい。
- 地域で連携を行い、より良くするための意見交換の場としてほしい。

## <利水関係者>

- 工水として25万トンの水を長良川に依存している。また、H12の大渇水でも大変助かった。工水、上水のため、フラッシュ操作を行うのはよいが、塩水が入らないように願いたい。
- 愛知県の45万人が長良川の水を飲んでいる。長良川上下流の環境改善は望むが、塩水の遡上は困る。より良い操作を行ってほしい。
- 堰の運用15年にわたって安全に管理されたことに対して御礼を言いたい。これからも前提条件をしっかりと守って管理してほしい。

## <農業関係者>

- 農業にとって「水」は大切であり、塩分があると農業をやっていけない。桑名市長島町の沿岸部では、現在でも塩害はある。このため、河口堰の上流に塩水を侵入させることがあってはならない。
- 地盤沈下に対して除塩対策により現在では塩害は見られなくなったが、ゼロメートル地帯であり油断すると再び塩害となる。S58に整備した農業用水施設も老朽化し管の腐食も進んでいる。今後の維持管理費の負担で困ってはいるが、淡水化されていなければ腐食はひどく、もっと維持費が掛かっていたことだろう。
- 今では、淡水化により塩害には悩まされることがなくなったが、その代わりに年間を通して排水機場に頼らなくてはならなくなったので、何か改善の方策はないか？



# 長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会

主な意見：

## <漁業関係者>

- 堰上流の改善だけではなく、堰下流の改善につながる堰操作はないか。堰の運用の仕方によって下流の改善ができる検討をしてほしい。堰下流のシジミの生息環境の改善も考えてほしい。
- 単なるゲートの開放だけで生態系を回復させようと言うものがあるが、現在、長良川がこの地域で果たしている水利用等の役割や機能について、木曾川や揖斐川等が代替できるのか。長良川だけでなく、木曾三川下流域全体を生活の場としているので、木曾三川全体の環境バランスを考えながら議論すべきである。

## <沿川関係者>

- 検証には生物環境が重要。生物的な面をもっと行ってほしい。検討する上で必要な調査は実施しないと、検討会を開いても科学的な議論はできない。
- 木曾三川下流部では、これまでの長い歴史の中で塩害と闘ってきた。住民として塩害が出ないような操作を希望する。
- 深く広く排水路が整備されているのは塩害対策のためである。塩害はないと言われる人がいるが、先人からずっと塩害被害を受け、これまで塩害防止対策に取り組んできたおかげである。渇水時には名古屋も苦勞し、海外から水を輸入したと聞いた。普段は水に余裕があるように見えても、余裕がなければ渇水になると途端に大変なこととなる。
- 河口堰とは関係ないが、長良川全体を良くするために、上下流の関係者が一同に集まり意見交換する場が欲しい。
- 塩分を含む水で金魚を育てると発色がきれいとなるが、金魚を育ててばかりはいられない。トマトは塩分があると甘くなるが数多くは育たない。塩水化すると長島町は途端に塩に浸かる。今でも地面の下を掘ると塩水が出ることを忘れてはいけない。



# 長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会

主な意見:

## <沿川関係者(つづき)>

- 工水の利用者代表として、H6渇水では60%給水となり、水買いに走った。12万トンの水を買い付け、その際には海外(韓国)も検討した。今は河口堰で安定した供給が受けられており助かる。塩水の遡上は困る。
- 年間で8万人が観光に訪れるため、水が安定的に確保されるのは大変助かる。昔は風水害保険にも入れなかった。河口堰が出来て今は保険に入れるようになった。「なばなの里」は高く盛土しているが、そのままでは今でも塩害のため、1m掘ると塩水が出て木が枯れる。塩に対する対策は十分にしてほしい。
- フラッシュ操作にあたっては、ウインドサーフィンなど川の流れに影響を受けやすいので、利用者に危険がおよばないように十分な広報をしてほしい。
- 塩水を堰上流に上げない操作を行うのは当たり前なのに、その話ばかりなので、もっと前向きにフラッシュ操作についての議論をしてほしい。
- 家庭を預かる主婦として、河川環境を考えて、川を汚さない石けんを作った。もっと普及するように推進を図りたい。

# 長良川河口堰の更なる弾力的な運用

## 【今後の「更なる弾力的運用」の検討にあたって】

- 堰上流への塩水の侵入をさせないことが大前提であることを再確認する。
- 堰の操作にあたっては、水面利用、漁業への悪影響を与えないように実施する。
- 生物環境へ与える物理的現象について把握する。
- 意見交換会はテーマを決め、意見を頂きやすい場とする工夫をする。  
定期的に意見交換の場を持つ。